

100年後の風景をつくる " 森の庁舎 "



図 1-1. 軽井沢町の 100 年後をつくる " 森の庁舎 "

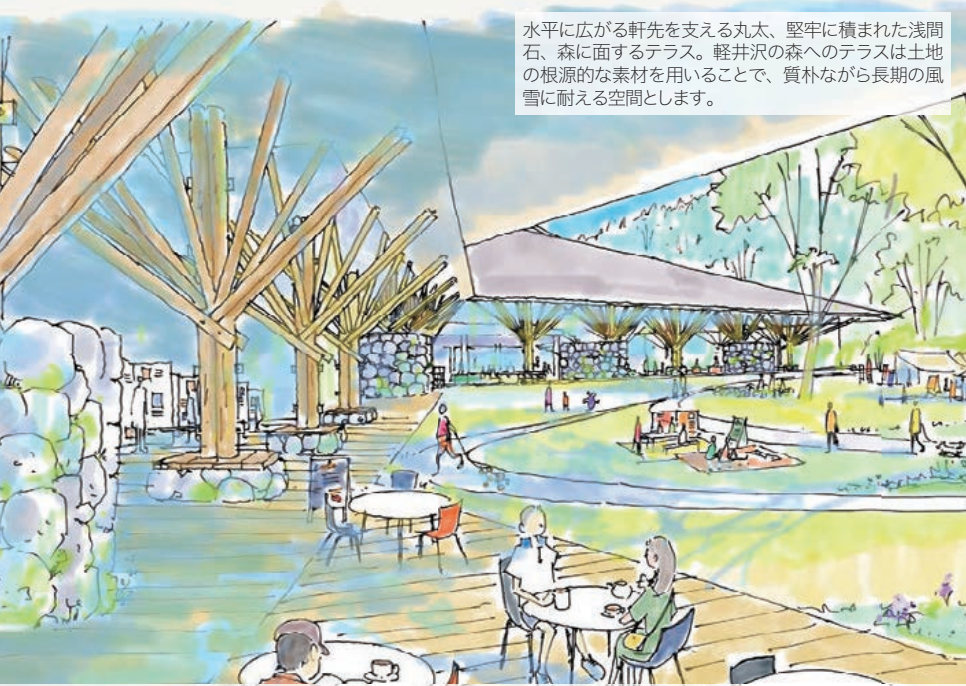


図 1-3. もりの縁側空間：地域のアクティビティを生み出す"まちニワ"

1 国際文化観光都市としての品位と調和を備えた緑の中の庁舎  
軽井沢の風土に合った「森の中の庁舎」

軽井沢の風土を読み解いた庁舎：周囲の自然・環境を丁寧に読み解いた軽井沢の風土に調和する「もりの庁舎」を提案します。  
森・まち・人を繋ぐグリーンコリドー：これからの 50 年 100 年をかけて作る、軽井沢町のグリーンコリドーの始点として、離山から湯川、神社といった周囲の森を繋ぎます。

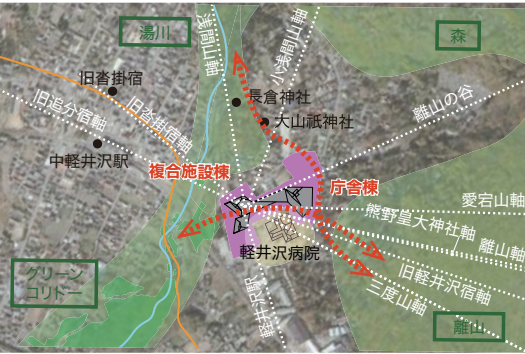


図 1-4. 軽井沢の自然・風土を読み解く

2 国際文化観光都市としての品位と調和を備えた緑の中の庁舎  
まちニワの種からまちニワへ

まちニワの種からまちニワへ：中村良夫氏が提唱した"まちニワ"は、軽井沢の隅々にある"種地"から始まる、社交・賑わいの姿です。"まちニワの種"として、"浅間石補強""浅間石ロッジ""浅間石サークル"、"浅間石ポット"が分散配置され、この場所でも人々の活動が行われることで、"まちニワ"が発生します。

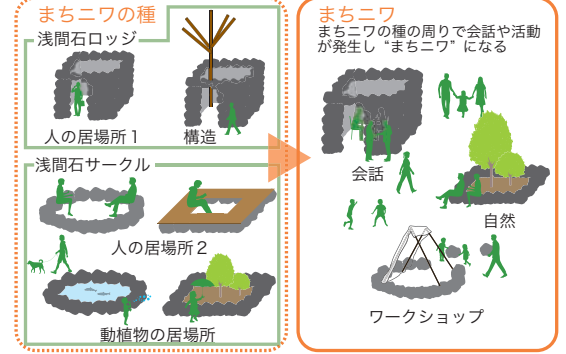


図 1-5. 人々のアクティビティから"まちニワ"が発生する

「庁舎建設及び周辺整備基本方針」について  
新庁舎の基本理念と機能

| 5つの柱 |                               |
|------|-------------------------------|
| 1    | 安心安全を支える防災拠点としての庁舎            |
| 2    | 環境に配慮した庁舎                     |
| 3    | 利用者に寄り添う庁舎                    |
| 4    | 国際親善文化観光都市としての品位と調和を備えた緑の中の庁舎 |
| 5    | 機能的・効率的な庁舎                    |

|                          |                                                |
|--------------------------|------------------------------------------------|
| 堅牢なRC造の庁舎と親しみの木の回廊       | 防災拠点として機動力を高める機能配置                             |
| 災害時における迅速な機能転換、支援活動      | 省エネ設備を可能な限り取り入れる                               |
| 地場産材による"まちの縁側"           | 再生可能エネルギーの活用                                   |
| ワンストップで便利で早いクイック窓口(総合窓口) | ホテルライクで快適なステイ窓口                                |
| ゆとりある"まちの縁側"             | 軽井沢町を体験する"ウェルネスリゾート"拠点                         |
| 周囲の森、グリーンコリドーを繋ぐ         | "景観に調和する庁舎" "遠近の景"から"まちニワ"へ                    |
| 軽井沢モダンの継承と展開             | 国際都市"軽井沢町"を目指す風土自治拠点                           |
| テレワーク・ワーケーション都市軽井沢の庁舎    | 人と共に成長する庁舎                                     |
| 執務空間のオープン化・ワンルーム化        | 将来の執務空間の増減、窓口業務内容・組織の変化など質・量両面の変化に対応するフレキシビリティ |

図 1-2. 新庁舎の基本理念と機能



図 1-6. 各階平面図